



Governor's Message

ACP 日本支部年次総会・講演会は今年で節目の5年目を迎えた。4月12日(土)に日本内科学会のご協力を得て、東京国際フォーラムでの開催となり、午前中に開催された Dr. Gremillion と小原まみ子先生による Western Style Case Discussion for ACP Associate and Student Members には66名、Luncheon for ACP Women Members (not for women only)には約80名、総会・講演会には288名、レセプションには145名の参加があった。年々、参加者が増えているのは嬉しい。

今年は初めて研修医・学生向けのプログラムを午前中に開催したが、大変好評であった。そのおかげもあってか、今年は学生の参加が増えた。レセプションで何人かの学生と話をすることがあり、大変嬉しく思う。Honorary Fellow の日野原重明先生が乾杯の挨拶をしてくださり、会員の皆さんにも学生達とも交流の機会があったかと思う。ACP は上下関係を感じさせないフレンドリーな雰囲気になるように努めているので、今後も多くの研修医・学生の参加を望んでいる。ここでも会員の協力をお願いしたい。

今年の講演会のテーマは「女性医師が活躍できる病院とは：勤務環境の整備と実力発揮の機会提供」であった。昼食時にも、このテーマの学生たちがアンケートを実施し、その結果を発表した。女性共同参画社会の構築は重要な課題であり、政府もこれを重要政策テーマとしている。ACP 日本支部としても女性の皆様に積極的に活動に関わっていただき、今後の医療、医学を担う Leader として活躍していただく事を期待している。

情報が世界に広がる「フラット」なグローバル世界では、従来のような「Top-down」ばかりでなく、「Bottom-up」の動きが社会の各層で起こっている。すべてのプロセスに「透明性」が要求されている、隠し事ができにくくなっている。このような動きを無視しては社会も、国家も世界も動かないという方向へ向かっている。Multistakeholders の全員参加型の Civil Society Movement である。ACP 日本支部はこのような動きを先取りしているから「上下関係を感じさせないフレンドリーな雰囲気」なのであり、皆さん一人ひとりが社会へ参加を呼びかけ、自分たちも切磋琢磨しながら日本の医療改革に貢献していけることを期待します。私のサイト <http://www.kiyoshikurokawa.com> にも多く発信していますので、たまには訪れてください。





黒川先生



David C. Dale 先生

ACP Japan Chapter の総会は 200 人を超える参加者で大盛況でした。黒川清 Governor の Welcome Address では、社会への貢献、医師としてのミッション、組織・社会の健康的維持のための社会変革(イノベーション)と、日本が世界で勝負するための基本的スタンス、フラットな世界での対応やスピードの必要性を強調され、大変インプレッシブなものでした。ACP President, Dr. David C. Dale のご挨拶の後、今年は「女性医師が活躍できる病院とは：勤務環境の整備と実力発揮の機会提供」をテーマにアメリカでの現状を Dr. Dale からご紹介がありました。1847 年に Harvard 大学医学部は女性の入学を拒否、それから 2 年後 New York の医科大学で初めて女性の入学が許可されたそうです。1915 年に Medical Women's National Association が設立され、1980 年女性の医学部卒業率 25% に比較して、2004 年は 47%、必然的に生じる

job sharing, pregnancy, two MD 家族など、様々な問題についての説明がありました。「高度に専門化された分野での leadership をめざして」のタイトルで国際女医会会長の平敷淳子先生、「女性医師の勤務条件を改善する為の課題と対策」を、働きやすい病院評価事業(ホスピレート)を展開されている NPO Ejnet 代表の瀧野敏子先生、病院の生き残りを左右する女性医師活用法のパネルディスカッションでは自治医大の矢野はるみ先生を交えて行われました。将来的キャリアとしての職業哲学、サポートできる指導者(メンター)や理解者との出会い、ロールモデルの存在、職場環境の実現、



平敷先生



瀧野先生



再教育の提供など、努力と共に強い意思の継続の必要性がディスカッションされました。どうしたらいいかではなく、あなたが何をしたいかとの平敷淳子先生の強い人生スタンスに会場は大喝采でした。米国では Faculty の 32% が女医、Deans and Chairs が 10%、Assistant Deans が 43% だそうですが、女性としての役割、適正もあるようです。

Gremillion 先生の恒例のケースプレゼンテーション「一目瞭然」、Dr. Dale の College Update に続き、ビジネスミーティングでは、大生先生の Professionalism Subcommittee からのレポート、私から、昨年の ACP Convocation 参加の写真と Credentials/Membership Committee の新しいフェロー昇格の手順などを説明いたしました。Volunteerism Award はプライマリケア医のための精神医学セミナーでファシリテーターとして活躍されている鎌倉市の井出広幸先生



Gremillion 先生

に、また ACP Evergreen Award は Observer Weekly 翻訳業務に対し日本支部 黒川支部長と Publication Committee におくられました。石橋委員長以下 Publication 委員一同起立して受賞を感謝するとともに、今後の活動にさらなる意欲を感じました。



日野原先生

懇親会では昨年に引き続き日野原重明先生の乾杯ではじまり、パーティ会場が満員になる程 Japan Chapter のメンバーに集まってきました。来年も是非参加してください。



井出先生

右写真(4月10日開催の理事会にて:後列左から石橋大海,渡邊毅,木野昌也,高林克日己,上野文昭,小林祥泰,前列左から檜山桂子,David C. Dale,黒川清,朔啓二郎 - 敬称略)



Women's Committee Luncheon Meeting

広島大学原爆放射線医科学研究所 遺伝子診断・治療開発 ACP Women's Committee 委員長 檜山桂子

ACP 日本支部年次講演会に先立ちまして、ACP 女性会員のつどい“Luncheon for ACP Women Members (not for women only)”を同日午前 11:40 から一時間、開催しました。その直前に研修医、医学部生を対象とした case discussion の企画もあり、若い世代を中心に 100 名近い(半数以上が男性!)予約登録をいただきました。講演会のテーマ「Empowering Women Physicians」に呼応し、男女共同参画・ワークライフバランスを改善するために「自分達でも将来の労働環境を考えていこう!改善していこう!」という気合の学生委員が中心となって男女共同参画に関するアンケートを作成し、その結果を学生委員杉原さんが発表し、参加者から広く意見を聞き、午後の講演会でのパネルディスカッションに反映させよう、という企画でした。



アンケートでは、それぞれの地域で多機関合同アンケートという試みを実施し(ランチョン資料 <http://acpjc.naika.or.jp> 最後のページの Acknowledge 参照), 医学部生(北海道, 旭川, 札幌, 山梨, 広島)と ACP 日本支部医師, 亀田メディカルセンター医師の計 958 人から回答を得, 興味深い結果が得られました:
* 女子医学生が Work Life Balance のために望む支援は, 再就職支援や再教育支援など, 子育てのために仕事を中断することを前提に考えている人が多い. 男子学生や男性医師においてその割合が低いのは当然としても, 女医はこれらを望んでおらず, 男性とともに仕事形態の多様性を望んでいる(バランスがとれるような形での仕事の継続を望んでいる), * 現在医師不足が問題化している小児科, 産婦人科, 救急, 外科などは, 学生は興味が高く, 専攻したい科としては少し減り, 現実の日本の医師の割合はかなり減る, * 特に女性において, 仕事を続けるために専門科を決めている人が多い, などです. すなわち, 学生には現実を知るチャンスと role model に欠けており, これを改善すれば特に女子学生も生涯プランをたてやすくなる, 現実に必要なものは生活に合わせて選択できる仕事形態の多様性であり, それが選択できれば, 学生の興味は今不足が叫ばれている科に対して低いわけではないので, バランスも改善されてくるだろう, というものでした.

この結果発表をもとに, Dr. Dale ACP 会長ご夫妻や講演会招請演者の平敷先生および瀧野先生, 黒川日本支部長を始め, 理事の先生方や Dr. Gremillion にもご参加いただき, サンドイッチを片手に活発な意見交換となりました. 米国でも女性医師が直面する問題にはかなり共通点があるが, 男女共同参画の環境や認識が整っていない分, 日本の方が女子学生の不安も女性医師の実情もより厳しい状況にあるのでは? 医師として休日を完全休日にするものの後ろめたさが男女とも日本の医学生・医師に強く, ワークライフバランスを困難にしているのでは? もっと work sharing を検討しては? などの意見が出されました. 仕事をしながら良い wife である条件は? という女子学生の質問自体, 男女共同参画に控えめな日本女性を反映しており, 仕事をしながら良い husband である条件と同等に考えれば良い, という意見が象徴的でした.

若い世代からパワフルな経験者まで含めたこうした意見交換が, 女性医師のワークライフバランス・キャリアアップと維持, 更には医療の質の向上に結び付くのではないかと明るい気持ちで午後の講演会に移行しました. 女性会員のつどい(男性会員も歓迎)は女性会員の communication のみならず, 会員の相互理解と女性内科医の活躍・社会貢献に向けた自由意見交換の恒例行事として定着させたいと考えておりますので, 来年も是非またご参加ください. 最後に, アンケート協力者および山梨大学社会医学教室の皆様に, この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます.

Western Style Case Discussion for ACP Associate and Student Members

亀田総合病院 腎臓高血圧内科

小原まみ子

2006 年より, ACP 日本支部でも Student Member および Associate Member の受け入れが始まっています. そこで, 本年度の ACP 日本支部年次総会では, Student / Associate Member 対象の初めての企画として, 年次総会同日の午前 10 時 ~ 11 時 30 分, “Western Style Case Discussion for ACP Associate and Student Members (WSCD)” を開催しました.

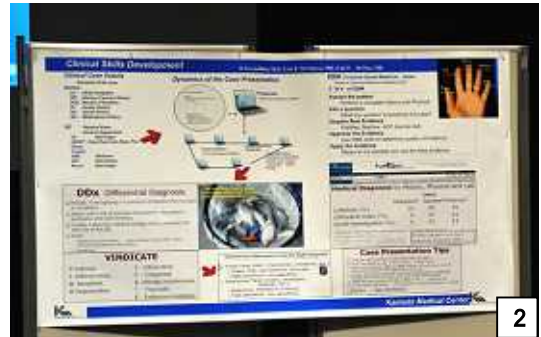
この企画は, 2007 年度の年次総会での Student Member の学生さん達との会話で出てきた「他の大学の学生や他施設の研修医と交流する機会がありません。」という話から発想を得たもので, せっかくの米国内科学会であるので, 様々な施設の ACP の Student Member や Associate Member が交流しながら, 米国で行われている形の Case Discussion を体験できるというのではないかと趣旨で始めたものでした. 企画開始当初の 20 名程度で行うことができれば・・という予想を大きく上回り, 87 名 (研修医 22 名, 医学生 65 名) から参加登録がありました.

当日の WSCD は、元ノースカロライナ大学 Professor で現在、
 亀田総合病院の臨床教育担当をしている David H. Gremillion
 先生(FACP)が discussant attending, Associate Member の大
 野真紀先生が case presenter, 小原が facilitator となり、全国
 から参加した discussants で、総勢 66 名の大規模な case
 discussion となりました。(1)



1

実際にあった、dyspnea on exercise と edema を呈した症例(最
 終診断としては、thiamine 欠乏症)を取り上げ、case discussion
 は、presenter から発信される臨床情報を discussants 全員で
 共有し複数の頭脳(コンピューターネットワークの例え)で議論
 するものであること、診断をしていく上で最も大切なのは病歴
 であること、病歴と身体所見だけで鑑別診断を考えられる限り
 多くあげ、鑑別するための最重要最小限の検査から順次行い
 絞り込んでいく(例えば、漁師さんの大きな網にかけたたくさ
 んの魚から目的の魚を探し出していく)という方法などの case
 discussion のエッセンス(2)を織り込みながら進行し、また、身体
 所見の診察デモでは、病室へ入る時点から五感を働かせなが
 ら患者さんのみならず患者さんを取り巻く状況も観察すること
 が重要であることや、表情・あいさつ・握手などを含めた患者さ
 んとのコミュニケーションの取り方の大切さやその意味なども、
 模擬患者との実演で示されました(3)。(上野文昭先生が模擬



2



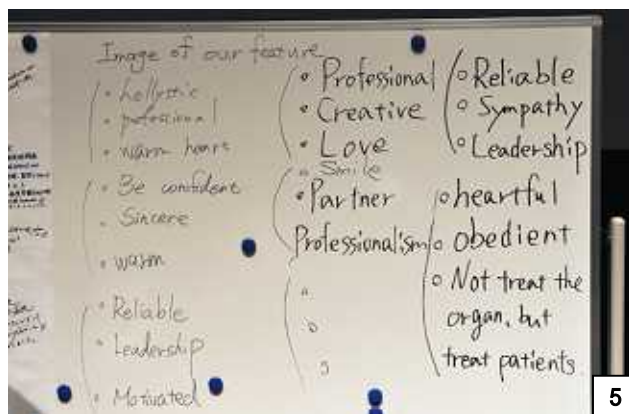
3



4

患者としてボランティアしてくださいました。ありがとうございました。(

また、WSCD 後には、グループに分かれて、自分達
 がなりたい医師像を話し合っ英語でキーワード3つ
 あげるとい「ゲーム」を行いました(4)。初対面でありな
 がら、グループになって話し合う Associate・Student の
 表情は明るく、かつ真剣で、sincere・love・sympathy
 などの心や愛情に関連したもの、professional・
 reliable・leadership など医師としての責任感や技能に
 関連したものなど、これからの医療の未来が明るくなる希望を感じさせるキーワードがあがり(5)、胸を張って生
 き生きと発表する Associate・Student の姿が印象的で
 した。



5

Associate・Student からは、モチベーションが上がっ
 た、リアルな体験ができた、case discussion のポイント
 がわかったなどの感想が寄せられ、来年総会まで待て
 ないとの声が多く上がっています。引き続き、
 Associate/Student Member 対象の企画を計画していく
 予定です。

なお、今回ボランティアをしてくださったのは、長谷川景子先生 (Associate Member, 横須賀市立うわまち病院呼吸器内科)、植松浩司さん (Student Member, 北海道大学)、片岡義裕さん (Student Member, 筑波大学)、土屋寧子さん (Student Member, 大阪大学)、平山敦士さん (Student Member, 山形大学)、村上和香奈さん (Student Member, 防衛医科大学校)、森田有香さん (Student Member 大阪大学) の7名のみなさんです(6)。ありがとうございました。



Board of Governors 2008 Spring Meeting

Vice President, ACP Japan Chapter 上野文昭



Internal Medicine 2008 に先立ち開催された Board of Governors Spring Meeting に、黒川支部長の代理として出席いたしましたので、その様子を報告いたします。

例年のように、プレゼンテーション、討議、決議案の多くは米国内の political な内容が主体で、日本支部、カナダや中南米の支部にとって関連性の高いものがあまり多くありません。しかしそれは ACP が熱意を持って診療報酬その他の医療環境改善に努力し、実際に行政に働きかける力を

を有している証でもあり、臨床医にとって心強い見方であると捉えることができます。

Japan Chapter に関連する議題として、支部年会費義務化に関する Task Force の最終案が Dr. Lynne Kirk より提示されました。支部会費の支払いは義務となりますが、会員一人ひとりがこれを当然のことと受け止めてご協力願いたします。

以前から検討されていた ABIM recertification に関する見解が若干の修正を加えて報告されました。内科学全般にわたる豊富な知識が評価される初期認定と比較して、実地診療に専従している内科医の再認定の場合には、臨床判断能力が重視されるべきとの見解が示されました。すなわち再認定に際しては、研修修了直後の医師たちと同一の試験で評価すべきではないとの考えで、臨床内科医により受け入れられやすい内容となっています。因みに、米国のすべての専門医認定は学会と独立した機関に委ねられ、内科専門医の場合も ACP は直接関与していません。それでも ACP の会議の中でこのようなプレゼンテーションの機会が設けられ、いわば公聴会のような形で ACP の意見がフィードバックされることと思います。

米国内の支部長が多数の決議案を討議している間に、International Breakout に出席しました。International Governor から選任されたメンバーによる International Council を設立しようという動きがあり、具体的な方策につき論議しました。現在米国内には International Relations Committee を設置した学会が少なくないようですが、ACP にはこれまで International Affair を論議する正式な場がありませんでした。今後細部を検討し実現化をめざしています。ACP の国際的な視野が広がり、これまで以上に世界へと展開することとなります。アメリカ大陸以外の唯一の支部として、日本の果たす役割も大きいのではないかと感じました。

2 日目に行われた Awards Luncheon では、日本支部は昨年続き Evergreen Award を受賞しました。Annals の邦訳公開に対する表彰で、石橋委員長はじめ Publication Committee の方々の日ごろのご尽力の成果と申します。来年の Japan Chapter Meeting であらためて表彰される予定です。



最終日に米国内支部長が Leadership Day Activity に参加している間、International Governors は National Academy of Science へのツアーに招待されました。リンカーン大統領により設立されたこの機関は、政府の援助を受けながらも国家と独立して学術的な報告を発信しています。Institute of Medicine はその中の 1 部門で、実際に大きな比重を占める部門です。President 自らによる歓待や、各部門の代表者が勢ぞろいしたパネルなど、有意義な訪問となりました。その中で、Food and Nutrition Program の代表者が、ある南米の支部長から「アメリカ人の生活習慣病と寿命に密接に関連しているのはあの高脂肪・高カロリー食であることがわかっているのになぜ手をつけないのか」と、やり込められていました。私も常に抱いている疑問で、あれだけ Health Science を意識した国が病的な食事を放置しているのは何故なのでしょう？これまで日本の医療現場や行政はアメリカに追従しているだけのような気がいたします。よいところは吸収して内々のために活かし、悪いところはきちんと指摘するのがパートナーとしてあるべき姿勢と考えた次第です。

Internal Medicine 2008-Convocation, Japan Chapter Reception

高根大学医学部附属病院

小林祥泰



Convocation Ceremony で行進をするために集まった新フェロー

久しぶりに ACP 学会に参加した。ACP の会長、事務局と FACP の申請資格を内科専門医に付与することや ACP 日本支部を作るかどうかの最初の会議を行ったアトランタでの学会以来である。その時事務局として出席しており、今も現役バリバリの Eve と久々に再開し、その時の思い出話に花が咲いた。アトランタの時もかなりの人数で Convocation に参加した覚えがあるが、今回も新たに



Convocation Ceremony

FACP を授与され Convocation に参加したメンバーが 23 名もあり、支部の中でも注目されていた。私は黒川ガバナーの代理と云うことで 12 世紀以来の伝統あるレガリアを身にまとい、初めて Japan の禪を掛けて 23 名の新 FACP メンバーの先頭を歩かせていただき大変光栄であった。今年は全体で 2,000 名程度の FACP が誕生し、そのうち 700 名程度が Convocation に出席したと云うことであ

った。壇上には ACP 役員がずらりと並び、一般メンバーと家族などが多数見守る中でのセレモニーは荘厳で感慨深いものであった。日本ではなかなか見られないもので、会員の中から総合内科専門医の授与式もこのような儀式にして欲しいという声も上がっていた。しかし、日本だとガラリアではなく古式豊かな衽になるのかもしれないと思ったりした。いずれにせよ日本の学会で学術発表以外の学会行事をこれだけ盛大に荘厳に行うところはない。人影もまばらな学会の会員総会をみていると学会自体に対する考え方の基本に日米で大きな差があるような気がする。そうい



International Reception にて



Dr. Knight, Transue, 小林先生, Dr. Sox, Mrs. Sox, Dr. Gremillion



Dr. Hall Dr. Harris Dr. Rodriguez-Portales 小林先生



Mrs. Gibbons Mrs. Hedberg Dr. Hedberg

えば米国内科学会の名称も American College of Physician である。College(ラテン語で Collegium)は、現在は教育機関(大学)の意味に使われているが、元は共通のルールの下で一緒に生活するグループの意味であったという。学会自体も会員の臨床教育に重点を置き、実践的な内容のプログラムが数多く準備されており充実していた。しかし、プライマリケアが中心なので日本内科学会のように医学の進歩を多くの会員がまとめて聞くことが出来る教育講演やシンポジウムも必要であると感じた。当日の夜は全員参加のディナーパーティがありみんなで参加した。数百名が参加して、あちこちで人の輪が出来て賑やかであった。

翌日の夕方から Japan Chapter Reception が始まった。宮本晴子さんの招待状の威力か、しばらくすると日本支部に関係ある ACP の主要メンバーが続々と詰めかけ大盛況となった。ほかの Chapter Reception もいくつか覗いてみたが、最初は比較的賑やかだったが次第に波が引くように静かになり、逆に日本支部に人が集まってくる状況となった。日本支部黒川支部長からの推薦でマスターに昇格された Dr. Gibbons に Japan Chapter から記念品贈呈が行われた。また、今年の ACP 日本支部総会で女性医師共同参画問題について講演していただいた前 ACP プレジデントの Dr. Dale にも上野先生から記念品が贈呈された。

私もこの3年間、文科省 GP で米国の地域医療臨床教育の視察に島根大学の多くのスタッフを連れて行くためにワシントン州 ACP 支部の Dr. Paauw や Dr. Knight, そしてコロラド州の Dr. Gibbons ほか多くのメンバーと本部の Eve に大変お世話になった。そのみなさんが Japan Chapter Reception に参加してくれたことに感謝している。

日本を訪れた Dr.Dale はじめ歴代の会長 ,あるいは来年訪れる会長や役員が多くが参加してくれて本当に楽しい一時であった . 日本のメンバーの友人達は家族連れで訪れてくれた方も多く賑やかな会であった . 今回の Reception を通じて ACP の中で日本支部の活動が高く評価されていることが感じられた .



Japan Chapter Reception



連絡事項

事務局からの連絡方法について

ACP 日本支部事務局からのご連絡は E-mail にて行っております。連絡がつくメールアドレスをお知らせいただきますよう、お願い申し上げます。尚、各種メーリングリストからの登録削除やアドレス変更がある場合には事務局までご一報ください。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ACP 日本支部事務局 (担当 宮本晴子)

〒113-8433

東京都文京区本郷3 - 28 - 8 (社)日本内科学会内

Tel: 03-3813-5991

Fax: 03-3818-1556

E-mail: acp@naika.or.jp

Web site: <http://acpic.naika.or.jp>

